

原則 / 早めの避難

河川の氾濫や土砂災害の危険性が高まる前に避難

積極的に情報を入手したり、まわりの状況に注意し、避難のきっかけをつかみましょう。



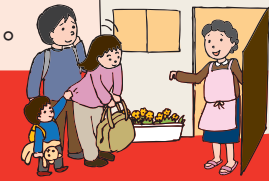
※避難所に入れる人数は限られます。感染症予防の観点からも、親戚・友人宅などへの避難も検討してください。

早い段階の避難先

たとえばこんなところへ・・・

- ▶ 親戚・友人宅など、町内に限らずより安全な場所
- ▶ 最寄りの指定避難所（基幹集落センター以外）

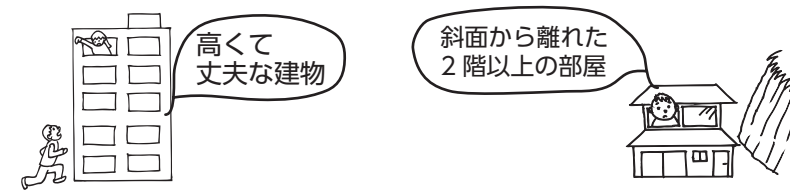
避難所を開設するときは、音声告知放送等でお知らせします。



逃げ遅れたら / その場そのときで命を守る対応を

避難することに危険を感じたら、命を守れる場所へ

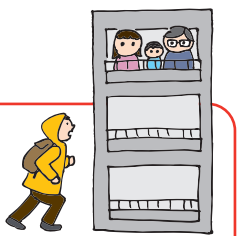
大雨や強風、夜暗いときなどに避難することは危険を伴います。無理に避難せずに少しでも安全な場所で身を守りましょう。



逃げ遅れたときの避難先

たとえばこんなところへ・・・

- ▶ 最寄りの高く丈夫な建物や高台
- ▶ 自宅の2階以上、斜面から離れた部屋
- ▶ 指定避難所に限らず、駆け込めるところ



町が発令する避難情報

町は、災害の進展に合わせて避難情報を発令します。必要なときに情報を受け取れるよう、確認しておきましょう。

情報の取得方法は、**8ページ**



ただし、中小河川の氾濫や土砂災害の場合、急激に事態が進展することが多く、避難情報が遅れる場合があります。

警戒レベル3 高齢者等避難

警戒レベル4 避難指示

警戒レベル4 までに必ず避難 警戒レベル5 緊急安全確保



土砂災害は

周辺の雨、予兆現象にも注意

土砂災害は、避難情報を発令することが非常に難しい災害です。避難情報に加え、周辺の雨や予兆現象に注意する習慣をつけましょう。また、地域で情報を共有することも重要です。

周辺の雨、予兆現象は、**9ページ**

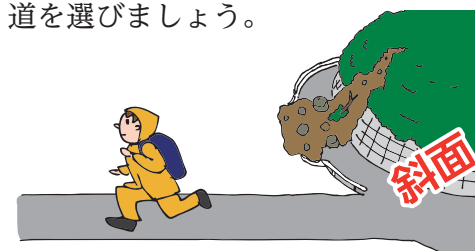
浸水の中を避難するのは危険です

冠水しやすい道路の通行は避けましょう。車に閉じ込められ流されたり、足元が見えにくくなり、転落するかもしれません。



土砂災害から避難するときは

できるだけ、斜面や渓流から離れた道を選びましょう。



小さな水路にも注意しましょう

増水した水路に近づいたり、横切るとはやめましょう。



避難指示発令後は原則歩いて避難

避難指示を聞いてから車で避難した場合、道路の混雑が考えられます。

車での避難を考えている方は、高齢者等避難などのより早い段階で避難を開始してください。



洪水災害は

気象情報、水位情報にも注意

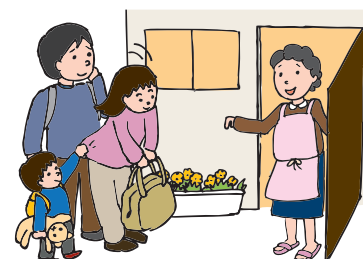
洪水災害は、避難情報に加え、気象情報や水位の情報に注意しましょう。また、周辺の雨にも気を付けましょう。

気象情報・水位情報は、**8～9ページ**

避難先を各自で確保しましょう

親戚・友人宅や、職場・宿泊施設など、指定避難所に限らず、安全な場所に早めに避難しましょう。

普段から、いざというときには避難させてもらえるよう、お願いしておきましょう。



少しでも安全な場所に避難しましょう

逃げ遅れてしまったら、2階以上に上がり、斜面から離れた部屋など、少しでも安全な場所へ避難しましょう。

上層階で
斜面から離れた部屋



自宅にとどまる場合には準備と覚悟を

浸水や孤立した場合には、水道や電気、ガス、トイレなどが使えなくなるおそれがあります。自宅にとどまる場合には、飲料水や食料などの準備と、不便を強いられることへの覚悟が必要です。



非常用備蓄品一覧は、**34ページ**